

保護者として期待が持てる6年間



共生図書館にて

OB・OG 座談会 樹徳での学びが将来への架け橋に

進藤(進路指導主事) 今日は忙しい中集まってくれてありがとうございます。まずは樹徳中高一貫校を卒業後、皆がどんなところで働いているか教えてくれるかな。

木村 はい。私は群馬県庁に所属し、産業政策課、県立女子大学事務局、医務課など様々な部署を経験しました。現在は市町村課に所属し、主に各種選挙の管理執行や、投票率向上のための選挙啓発活動、中学高校への選挙出前講座を行っています。

岡崎 私は大学卒業後に2年の研修を終え、皮膚科医として大学病院の医局に入局しましたが、妊娠出産を機に地元の桐生に帰ってきました。現在は育児に専念していますが、今年度から高崎のクリニックで医師として仕事に復帰する予定です。

板橋 先輩に続き、自分も医学の道に進みました。群馬大学医学部の脳神経外科に所属し、現在は渋川医療センターで働いています。大学院にも所属し、神経疾患の診断、治療にかかわる研究をしています。

進藤 三人とも活躍しているようで何よりです。皆さんがそれぞれの仕事を選んだ理由や、仕事のやりがいを教えてください。

木村 私が群馬県庁に入ったきっかけは、大学生の時の県庁インターンシップです。県庁は職場の雰囲気良く、働く先輩たちが輝いて見えたのが決め手でした。行政事務の魅力は、異なる幅広い分野で働けることです。今日来ている二人は医師として働いていますが、自分が県の医務課にいる時は、地域医療や救急・周産期医療など、県の保健医療計画に関わっていました。実際に現場に行き意見を聞き、群馬県民がより良

く暮らすために本当に必要な施策は何か、常に考えてきました。大きな予算を執行することには、大きな責任を感じると共に、とても充実感を覚えます。

岡崎 私は父親が医師なので、一番身近な職業が医師でした。中高で真剣に自分の将来と向き合う中で、人の病気という悩みに一緒に向き合い、その回復を助け、笑顔を見ることができると医師という職業を、本格的に目指すようになりました。中でも皮膚科に興味を持ったのは、誰も人生の中で一度は皮膚で悩むことがあると思うので、子供から大人まで、多くの人の役に立てると思ったからです。また、自分が女性ということもあり、肌を綺麗にしたいという気持ちに共感し、自分もそのお手伝いをしたいと思ったからです。

進藤 ご家族の働く姿を見ると、自分も目指したいと思うよね。板橋さんはどうして医学部を目指したのかな。

板橋 実は当初、自分は人工知能の研究をしたいと考えていました。しかし、人工知能を作るには人間の脳を理解しなければと思い、医学の道を選びました。やがて、自らの手で病気を治し、患者を助けることを望み、脳神経外科医になりました。脳神経外科は、脳卒中や頭部外傷など、重大な疾患の治療に関わる診療科です。また、渋川医療センターは県で唯一のてんかん診療拠点病院であり、てんかんやパーキンソン病などの神経難病を専門的に治療しています。大変な仕事ですが、自分にしかないスキルで人助けができるため、やりがいのある仕事です。

進藤 次に、皆さんの中高生時代の思い出を聞かせてください。



木村 裕介 さん

4 期生
埼玉大学
経済学部経済学科
卒業



岡崎(和泉) 早紀 さん

4 期生
東京女子医科大学
医学部医学科
卒業



板橋 悠太郎 さん

6 期生
群馬大学
医学部医学科
卒業

岡崎 私は勉強を中心に頑張っていました。加えて、合唱コンクールなどの行事も全力で楽しみました。中高時代の仲間は、卒業した今でも大事な友人です。

板橋 僕も合唱コンクールは楽しい思い出の一つです。元々音楽が好きだったので、中学校では音楽部に所属し、様々な演奏会やイベントに参加しました。皆で力を合わせて大きなことを成し遂げたことは、人生においてとても良い経験でした。

木村 私は中学時代、野球部に所属していました。部活も勿論ですが、学校行事も頑張った思い出があります。特に、球技大会・体育祭・合唱コンクールでは、クラスで放課後に練習して、お互いに切磋琢磨しました。皆で一緒になって、がむしゃらに全力で取り組んだ精神は、今の仕事を行う上での推進力になっていると思います。

進藤 皆さんの中高生時代を思い出すと、懐かしいですね。進路指導主事として、皆さんが行っていた勉強法も気になります。

板橋 僕の場合は苦手な分野を繰り返し書いて覚え、説明可能になるまで続けるという方法でした。時間と根気の要る方法ですが、無事結果を出すことができました。

岡崎 私は定期試験の時、約一か月前に作成した自己計画表のとおり勉強し、一日まんべんなく色々な科目を勉強するように心がけていました。また、私は読書が好きだったので、少しでも好きなことが勉強につながるように、勉強の合間に読書をしたり、好きな洋画を観たりしていました。読書は国語力、洋画は英語力の上達に繋がったと思います。

木村 私は放課後に友達と残って、勉強会をしたこともありました。大学受験は情報心理戦なので、色々な人から情報を聞き、自分に合う参考書や勉強法を模索するのがいいと思います。志望大学の出題傾向を徹底的に対策すると共に、自分の得意教科、不得意教科を分析することも重要です。特に、不得意な分野には集中的に取り組み、不正解の原因を自分なりに分析することです。それを繰り返すことで、できない問題はなくなるはずですよ。

進藤 みんな熱心に勉強に取り組んでいたようですね。それでは、皆さんが思う樹徳中高一貫校の魅力を考えてください。

板橋 樹徳中高一貫校は先取り教育なので、最後の一年は受験対策にじっくり時間をかけることができました。また、樹徳中高一貫校の先生方は生徒の特性に合わせて助言を下さり、課外活動参加の機会も与えてくれました。全国数学選手権大会にも参加を勧めて頂き、チームで全国優勝を収めることができました。一人では為

し得ないことを実現できたのは、樹徳中高一貫校のお陰だと思っています。

岡崎 樹徳中高一貫校は1学年あたりの人数がさほど多くないので、アットホームな環境で先生がひとり一人の学力や性格を理解してくれていたように感じます。私は目をかけて貰っている方が勉強する気になる性格なので、有難かったです。

木村 確かに、先生方が親身になって相談に乗ってくれるのが樹徳中高一貫校の魅力ですね。何より最大の財産は、青春時代の一生の友を作ることができたことです。卒業してから10年以上が経ちますが、今でも定期的に会って食事したり、旅行に行ったりと仲良くしています。今の自分の原動力であることは間違いありません。

進藤 最後に、後輩たちへのメッセージをお願いします。

板橋 僕は樹徳中高一貫校のお陰で、自分らしく、大きく力を伸ばすことができました。人と違っていても恥ずかしく、その力を一所懸命、存分に発揮してください。

岡崎 中高の集団生活では、勉強だけでなく人間関係でも悩むことがあると思います。私は周りのことが気になるタイプでしたが、正解はないので、基本的にはマイペースで過ごしていきたいと思います。今は我慢することも多いかと思いますが、大学生になったら楽しいことが待っているの、勉強も学生生活も夢に向かって無理しすぎず頑張ってください。

木村 努力は一生、本番は一回、チャンスは一瞬と、尊敬する人が言っていました。チャンスをつかむために、本当にやりたいこと、楽しいと思うことにがむしゃらに全力で取り組んでください。自分がこれだ!と思って決断したことに間違いはありません。自分自身も地元に戻ってきたので、地元桐生市、ひいては群馬県のために貢献できるように、一生懸命に努めていきたいです。

進藤 ありがとうございました。これからも頑張ってください。



共生図書館 カフェスタイルスペースにて